

2016 年度共愛学園高等学校入学試験について

【入試形態】「推薦入試」、「学業特別奨学生入試」、「一般入試」

「推薦入試」は「作文と面接」となっています。(英検推薦は面接のみ)

「学業特別奨学生入試」は5教科の筆記試験のみ。ただし、帰国生は国、数、英3教科と面接。

「一般入試」は5教科の筆記試験と面接。ただし、帰国生は国、数、英3教科と面接となります。

試験は英語科も普通科も英語のリスニングを含む共通の入試ですが、英語については一部普通科と英語科では異なる問題が含まれています。試験時間は英語のみ50分で初めの約10分間がリスニング試験、残り40分が筆記試験となっています。他の4教科は45分間の試験となります。

*詳細は、必ず2016年度生徒募集要項でご確認ください。

【各入試科目の出題範囲・内容】

【作文】

〔推薦入試〕 400字以上600字以内(句読点も1字とする)。題は試験当日に出題される。

【面接】

英検推薦、帰国生入試は、個人面接。それ以外は集団面接。

【国語】

〔学特入試〕 現代文分野大問2(評論的問題、小説的問題)8割

国語常識問題(古典分野を含む)2割

〔一般入試〕 学特入試と同じになります

ポイント

- ・現代文は評論・評論的な問題と小説か随筆。

漢字書き取り、読み、語句の意味、四字熟語など

評論や評論的な文章では、読解力の基礎を確かめるための指示語・接続詞・言い換えの表現などを問いながら、著者の主張に迫る設問へと続く。

小説では動作、会話、情景描写などから、登場人物の心理をつかむ設問、主人公の心情をつかむことによって、その場面の主題をつかむ設問へと続く。

- ・国語常識問題は古典分野(古文・漢文)を含む基本的な設問が出題される。文学史的な設問(作品名・作者・成立時代など)、文法、慣用句なども勉強しておくといいでしょう。

【数学】

〔学特入試〕〔一般入試〕とも傾向は同じです。

昨年度と同じく、学特・一般ともに最初の計算問題を40%とします。できるだけ最初の計算問題でのミスをしないように注意しましょう。また、2番以降の問題ではすべての範囲から出題します。

具体的には、主に

「方程式」、「関数」、「図形」、「確率」の分野からの出題となります。

ただし、中学3年で学習する「三平方の定理」、「円」は出題しません。

問題量が多いので、できる問題から解くように心がけましょう。

【社会】

例年通り大問 4～5 問、各大問に小問(問い)が 10 問前後あり、図・表・写真などの資料が含まれる。各分野については以下の通り。

・地理分野

[学特入試]

- ・地形図に関する問題が出ます。(近畿地方に絡めて学習しておくとい良いでしょう。)
- ・2015～2016 年にかけて、スエズ運河に関するニュースがみられます。アフリカの自然環境・産業・文化などを調べておくとい良いでしょう。

[一般入試]

- ・地形図に関する問題が出ます。
- ・2016 年は、アメリカ合衆国での同時多発テロから 15 年が経ちます。北アメリカの自然環境・産業・文化を中心に学習しておくとい良いでしょう。

・歴史分野

[学特入試]

- ・今年の入試は古代を中心に出题いたします。日本史・世界の歴史ともによく教科書や資料集を読むようにして下さい。特に、文化史については写真などを見てそれぞれ特徴をつかんでおくことをお勧めします。また、世界三大宗教と言われているキリスト教・イスラム教・仏教についても、概要をよく理解しておきましょう。

[一般入試]

- ・昨年、2014 年は「第一次世界大戦」が勃発して 100 年の節目でした。したがって今回の入試問題は、第一次世界大戦直前から大戦後まで、20 世紀初頭から 1920 年代後半までの日本、世界の様子を出題したいと思います。年代ごとの流れを理解しつつ、学習するポイントを以下に挙げておきたいと思います。

- ①第一次世界大戦前の国際関係(同盟・協商関係)
- ②第一次世界大戦後の国際社会の動き。

・公民分野

[学特入試]

- ・日本国憲法の制定過程についてよく復習しておいて下さい。公布・施行の年月日、三大原理についても理解を深めておくとい良いでしょう。
- ・国際連合のしくみ、成立の過程についてよく復習しておきましょう。関連する組織のアルファベットの略称を整理して理解することをお奨めします。

[一般入試]

- ・司法権・立法権・行政権について細かく出題します。(小問 6 題ほど)
- ・地方自治についての問題を出題します。(小問 6 題ほど)
- ・貿易の問題をどこかで入れる予定です。

【理科】

実験や観察の問題が多く出題される。教科書に掲載された実験や観察はよく復習をしておくこと。

- ・物理分野 音・光・力・電気・運動に関する分野で、この分野は計算を必要とする問題が多く出題される。また、実験や観察から得た情報を読み取ったり、考えたりする問題も出題されるので、教科書にある実験や観察、その中で使用する機器の特徴、導き出された定理や法則をよく理解しておくこと。定理や法則の名前だけではなく、その内容まで十分に学習しておく。
- ・化学分野 状態変化、化学変化、原子や分子、物質の性質に関する分野で、教科書にある実験や観察の操作や結果、注意点などを理解しておく。また、実験や観察でわかる物質の性質、教科書に載っている原子や分子の元素記号や化学式、そして、化学反応を表す化学反応式も書けるようにしておくこと。
- ・生物分野 植物や動物やヒトのからだ、生物同士のつながりといった、いわゆる生命体に関する分野で、それぞれの動植物全体を大きくとらえての共通した特徴、異なる特徴を整理し、系統的に理解しておく。また、動植物の特徴ある部分の働きや、その必要性についても学習する。また、よく使われる観察や実験、試薬や溶液についても、十分に復習しておくこと。
- ・地学分野 地層・火山・地震、気象、天文に関する問題で、最近話題になった事象や発生した現象についての問題が出題されることが多い。また計算問題が出題されることもある。

全体的に教科書を中心とし、単なる丸暗記ではなく、自分の言葉で説明できるよう準備することが必要である。

【英語】

◇学業特別奨学生入試（英語科・普通科共通問題。一部別問題を含む。リスニングは共通問題）

時間配分 Listening → 約 10 分（放送は 1 回のみ）

Reading → 約 40 分

配点 Listening → 20%

Reading → 80%

問題形式 Reading（共通）・文法、語彙（昨年とほぼ同じ形式）

・対話文（選択形式）・長文問題 1 題（宇宙の天体についての話）

（別問題・普通科） ・語彙問題（発音や綴りを問うもの含む）

（別問題・英語科） ・語の定義（最初の 1 語あり）

・語彙問題（一般常識的な知識も必要）

◇一般入試（英語科・普通科共通問題。一部別問題を含む。リスニングは共通問題）

時間配分 Listening → 約 10 分（放送は 1 回のみ）

Reading → 約 40 分

配点 Listening → 20%

Reading → 80%

問題形式 Reading（共通）・文法、語彙（昨年とほぼ同じ形式）

・対話文（選択形式）・長文問題 1 題

（別問題・普通科） ・並べ替え問題

- ・ 文法、語彙（一般常識的な知識も必要）
- （別問題・英語科）
- ・ 語の定義（最初の1語あり）
- ・ 語彙問題（一般常識的な知識も必要）

学特入試・一般入試ともに中学校で学習する文法事項のほとんどが出題されます。教科書の学習内容および応用力を身につけるために、問題集などで、様々なパターンの問題に慣れておくようにして下さい。長文問題では内容把握を中心に出題されるので、読解に必要な語彙力もつけておきましょう。